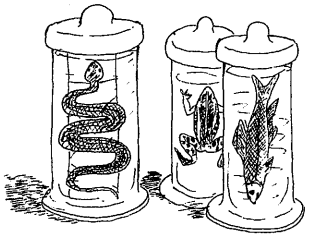
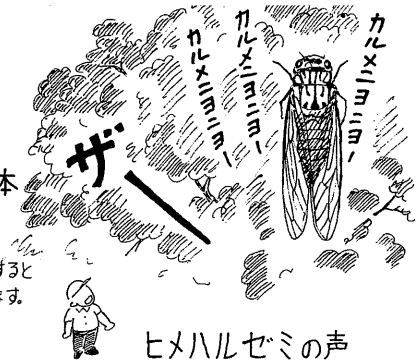
夏の博物館



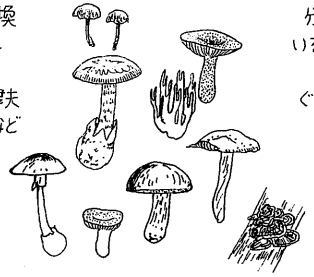
魚類・両生類・は虫類標本
（平成10年7月11日）

液浸標本は年数が経過すると色がぬけて白くなってしまいます。
博物館の標本も真白になってしまったものが目立ってきました。　そこで、
新しい標本を作るために動物部門の学術委員が全員集まって標本作りをしてくれました。
特に生態展示室の標本を交換するために、淡水魚、ヘビ、カエルを更新しました。
館で準備したもの、原田猪津夫先生が採集し、保存していたものなど40点が標本になりました。

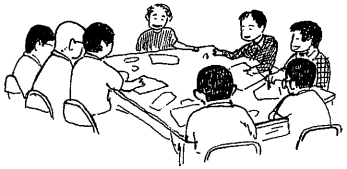


ヒメハルゼミの声
（平成10年7月9日）

生きた化石昆虫といわれるこのセミは、体が25mmくらいで、かっ色。とう明の羽をしています。
分布が限られていて、天然記念物に指定しているところもあります。
野外調査に出かけたこの日、東門谷でぐう然鳴き声を聞くことができました。
一匹が音頭とりをすると、まわりにいるヒメハルゼミが一斉に鳴き出し、まるで夕立が来たような音でした。



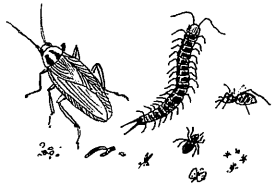
愛知県コノハズクの会
（平成10年7月26日）



県の鳥コノハズクの調査と保護を目的に「愛知県コノハズクの会」を結成しました。
その第1回の打合せを博物館で聞き、今後の取り組みや、進め方について協議しました。

梅雨期のきのこ観察会
（平成10年6月27日）

友の会主催の初の行事として「鳳来きのこ倶楽部」のメンバーを中心に68名が参加しておこないました。
秋に見られるものとほとんど同じ種類が発生していました。チチタケのような食菌や、フクロツルタケなどの猛毒菌まで27種が判明しました。
これから秋まで、本格的なきのこシーズンです。
9月20日からの「きのこ展」もお楽しみに。



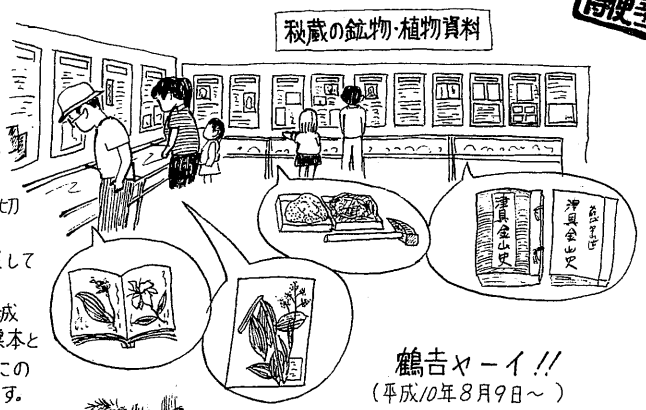
展示室くん蒸
（平成10年7月14日）

昨年の標本庫につづいて、今年は展示室内の標本のくん蒸処理をしました。
専門の業者が展示ケース内にガスを注入し、標本に付く虫を殺します。作業後には、いたるところに大小の虫が死んでいて、こんなにいたのかとビックリしました。

音為川魚類調査（平成10年7月11～12日）

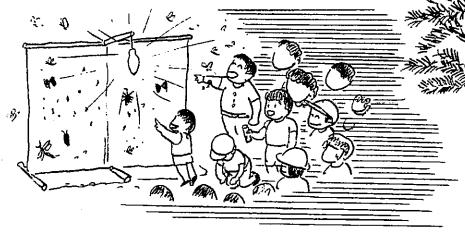
魚類が専門の堀正和先生の調査に同行させてもらいました。
夜間の川の調査は初めてで、ワクワクドキドキします。
夜は昼間の魚は眠っていて、ボーとしているので手でとつかまえられそうです。反対に夜行性の魚は元気に泳ぎだします。　夕方にしかけておいたトラップの中味も楽しみでしたが、この日は不漁でした。

鳳来寺山自然科学博物館
はくぶつかんだより 1998.8 No. 51



夏の特別展
（平成10年7月20日～8月31日）

昭和38年の開館時から逝去されるまで学術委員をされた「山本隆、藤城豊、鳥居喜一、酒井榮吾の各先生が生涯大切にされた資料を初公開しました。
いずれも半世紀以上にわたって研究してきた汗と思い出のつまった宝物です。
山本先生の「鳳来植物図譜」八巻、藤城先生の「津具金山史」、鳥居先生の植物標本と採集記録、酒井先生の研究資料など。この機会をのがすと見られないものばかりです。
見学した人は皆さん感動して出ていかれます。



林の中の生きものを学ぶ
（平成10年8月8日～9日・晴・32名参加）

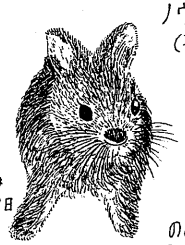
一泊しての学習会は初めての試みでした。
夕方、紙コップ内に特製のエサを入れた虫の落し穴（ベイトトラップ）を仕掛け、日没からは、ライトで虫をおびきよせるライトトラップをおこないました。アゲハチョウにそっくりなガで、とてもめずらしいアゲハモドキもやって来ました。
翌朝5時半からバードウォッチング、トラップの回収、昆虫標本の作り方の実習、学習会のまとめ、と盛りだくさんで、時間が足りないほどでしたが、充実した学習会になりました。

鶴吉ャーイ!!
（平成10年8月9日～）

時々外泊をするようになっていたムササビの鶴吉でしたが、この日を境に、今だに博物館脇の巣箱に帰ってきません。
毎朝、職員（森下）が「今日は帰って寝てるかナ」と家をのぞきますが、もぬけのからです。
以前、飛膜にケガをしていたので、森の中で木の枝にひっかかったままじゃないかと心配しています。
でも、きっと野外での生活にも慣れて、行動範囲も広がり、のびのびとあちこち泊まり歩いていると思いたいです。
自然復帰大成功としておきます。

溺れてしまったウナギ2匹
（平成10年8月3日、18日）

最近少なくなったウナギをみんなに見てもらおうと小椋さん（友の会会長）が、食べるには少し小さな型のウナギを館の水槽に入れてくれました。
ところが居ごこちが悪いのか、夜のあいだに水槽から逃げ出して、ロビーの床で溺死していました。再度入れたウナギも同じ運命でした。
夜の水槽を泳ぎまわるウナギ、ナマズ、アカザを楽しみにしていたので残念です。
生命力の強いウナギと水の外ではどうしようもありません。



ノウサギの赤ちゃん
（平成10年8月13日）

体重110g
生後7日

鳳来寺山パークウエイの係の人が小箱に入ったノウサギの幼獣を持ってきました。
利用者の人がパークウエイのどこかでつかまえて、あづけていったらしく、困ってしまったようです。
栄養不足で、すい弱していて、獣医さんに診てもらったあと、しばらくめんどうをみることにしました。今はミルクとカラムシの若葉を与えています（担当清尾）。
元気になったら、鳳来寺山へ放します。

奥三河地方の愛博協加盟館連絡会議
（平成10年8月11日）　↳愛知県博物館協会

愛博協には現在119館が加盟していて、奥三河地方では10館あります。当館は理事館になっていますが、他館との連絡が不充分だった反省から、今後定期的に連絡会議をもつことにしました。
第1回は、8館の館長や代表者が集って意見交換をしました。

キノコから紅葉の季節へ

鳳来寺山自然科学博物館

秋の陣…「きのこ展」長期戦の巻
（平成10年9月20日～11月30日）

「きのこ展」は今年で10周年です。はじめは3日間からスタートしましたが、年々人気が出てきて期間をのばすうち、今年は2ヶ月以上になってしまいました。

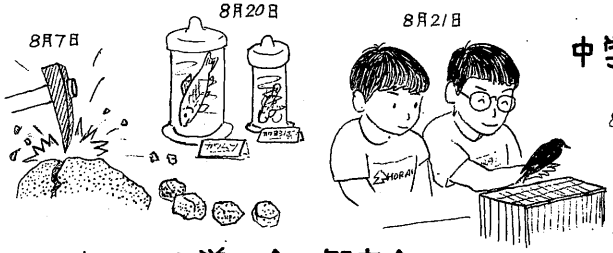
今回は入口に発泡スチロール製のアカヤマドリをすえて歓迎しています。親子で記念写真を撮ったりしていると、うれしくなります。夜なべして作ったかいがあります。

しかし、この展示の主役は何といっても実物のきのこたちです。

週末には新鮮なきのこを求めて採集に出かけますが、これがなかなか大変です。でも、きのこ好きな住民の方や鳳来きのこ倶楽部のメンバーの協力でテーブルのきのこがとぎれることはありません。

この展示はみなさんの支援で成り立っています。

きのこ展



中学生の職場体験、博物館実習

8月7日　新城市立東郷中　広瀬くん 金子くん
8月20日　設楽町立清嶺中　加藤さん
8月21日　鳳来中 竹本くん 原田くん でした。

それぞれ、岩石の資料作り、標本の展示、動物保護などの実習を経験しました。

きのこを学ぶ会＆観察会
（平成10年10月11日 はれ、17日雨 92名参加）

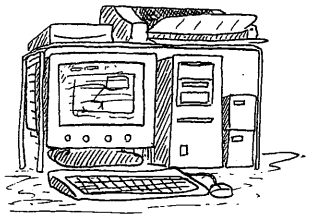
この学習会は声を小さくして募集するようにしています。それでも毎年申し込みが殺到して、断わるのに心をいためます。友の会員を優先しているので、この学習会のために会員になる人もいるくらいです。

今回は鳳来寺山周辺の急な斜面の多いところでしたが59種（不明種は除く）が観察されました。

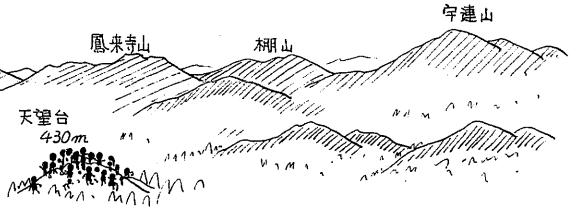
11日に参加できなかった人に急きょ設定した17日は台風の雨で野外観察はできませんでしたが、きのこ展とスライド、そして特製きのこ汁でお勉強。雨もまた楽しです。

博物館も電脳時代?!
（平成10年9月4日）

この日パソコンがやってきました。今後これを使って博物館の情報をインターネットを通して発信したり、資料や文書の管理、事務処理などいろいろなことに役立てていきます。



秋の紅葉を楽しむ会
（平成10年11月8日 71名参加）



快晴の県民の森でおこないました。

昨年は麓までしたが、今回は東尾根の展望台までのきびしいコースです。

急な坂道はきつかったけど、展望台では360°のパノラマで、疲れを忘れさせてくれました。参加者には小学生以下の子供が9人。途中眼からも汗が出てきた子もいましたが全員登頂できました。最年少は3才の石野克弥君（長篠）で、最後まで自分の足で歩ききりました。えらいソ！

紅葉には少し早かったですが、ビロウドノリウツギなどこの地域でしか見られない貴重な植物も観察することができました。ちょっとハードな思い出に残る学習会でした。

毒きのこだったんだ！（平成10年10月）

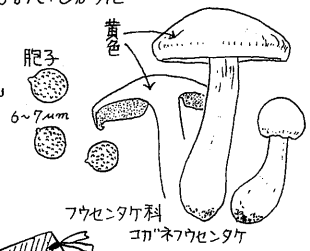
鳳来町の黄柳野方面は地質が特殊なことからか珍しいきのこがたくさん発生します。

そのひとつに全身黄色のコガネフウセンタケとおぼしききのこがあります。図鑑にもくわしく記載されていません。

当然食毒もわかりませんが、これを試した方がいます。

その結果、食べたときはおいしかったそうですが、その後下痢が2日間も続いたそうです。

体験談が「瑠璃山No.4」に載る予定です。みなさんはまねしないでください。



たっしゃでナー

博物館で保護し、元気になった生きものたちが次々に自然界へ旅立っていきました。

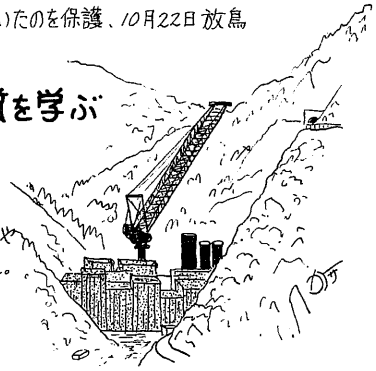
- ムササビの鶴吉　8月26日、いったん巣箱に帰ってきた後、再び山へ（No.51参照）
- ムササビのBスケ　庭野小学校で育てられ、無事放獣（テレビで紹介されました）
- ノウサギの権兵衛　9月17日 篠山へ（No.51参照）
- オオコノハズク　8月26日　博物館で、石原さん一家に見守られて放鳥（No.50参照）
- フクロウ　10月11日に大野で鳥よけの網にからまり弱っていたのを保護、10月22日放鳥

栞（しおり）になる入館券です
（平成10年8月19日～）

大人用の観覧券を新しくしました。今までのものが終ってしまったためです。新しい券は端に穴があいていて、リボンをつければすてきな栞にもなります。

券面には鏡岩やコノハズク、モリアオガエル、キノコなど8種類のイラストが印刷されていて、裏面にはスタンプも押すことができます。ここを訪れる人にはよい記念になるはずです。この栞入館券が欲しい方は、入場料を払えばかんたんに手にはいります。

大島川沿いの地形と地質を学ぶ
（平成10年8月22日 56名参加）



ダム建設が進む大島で実施。中央構造線をまたいで岩石のちがいやその成因について熱心に学びました。

黄鉄鉱や雨の化石、石炭も採集できて感激でした。

ほくぶつかんだより 1998.11 No.52

冬の博物館かいわい

愛知県博物館協会自然科学部門研修

（平成11年2月9～10日　快晴）

愛博協の自然科学部門の研修会が東栄町の天文台"スターフォレストみその"でおこなわれました。

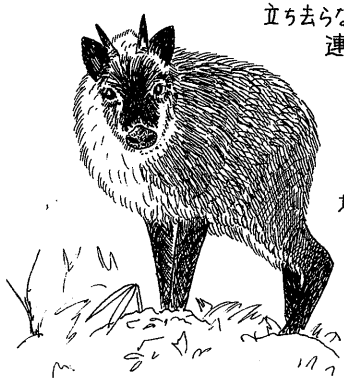
第1部は「冬の星座の観察と指導法」。当然、夜の研修です。日本有数の星空を氷点下の屋外で満喫しました。

2日目の第2・3部は施設周辺のフィールドを利用した野鳥観察と冬の昆虫観察。その指導法の受講です。

この研修には、博物館職員や教員、当館の友の会員も参加しました。時間が短かく感じる盛りだくさんの研修でした。

カモシカあらわる

（平成10年12月13日）



千枚田で有名な四谷にニホンカモシカが現れ、いっこうに立ち去らないので、何とかしてほしいとの連絡がありました。

鋭い角があるし、恐いなあ…と思いつつも、めったに出会えないし、写真撮影のチャンスと思い直して出かけました。

地元で、友の会役員の小山舜二さんが、すでにかけつけていました。

2人で力をあわせて移動させましたが、途中で見失ってしまいました。でも写真はバッチリ撮れました。

学術委員主任者会議

今年は例年になく主任の先生にひんぱんに集まってもらっています。記念館報、鳳来寺山ガイドブックなどの編集委員もお願いしているからです。

動物：大平仁夫（国立生理研名誉技官）
植物：高木典雄（名大名誉教授）
地学：仲井　豊（愛教大学長）
総務：牧野彦二（新城文化財専委）
の各先生方です。

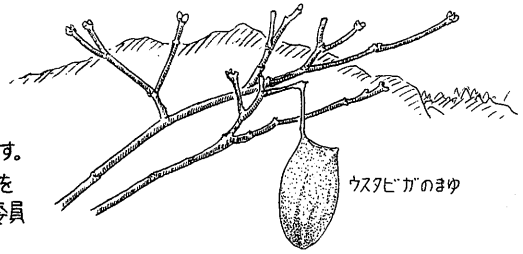
館報・第28号の発行をめざして

今年度は開館35周年にあたる記念すべき年です。そこで館報も記念号として、多くの方に執筆をお願いしました。その結果13名の当館学術委員の先生方から原稿をいただくことができました。

館員も含めると138ページになります。

印刷費を節約するために、原稿はすべてワープロで入力したものにしました。職員のパソコンも総動員しての作業です。

オールカラーの記念館報の完成まで、あとひといきです。



冬の自然探検

（平成11年2月14日、63名参加、晴）

冬の鳳来寺山自然探検は、好評で10年以上続けています。今年は少し内容が変りました。

今まで植物部門の学術委員で担当していましたが、今回は動物部門も加わり、野鳥やクモ類の観察グループ、植物、昆虫の観察グループを編成し、自然探検に出かけました。

鳥は11種を確認。また、杉皮に巣を作るキノボリトタテグモの巣穴さがしでは、みんなが熱中しました。

原始的な昆虫の形態を残すイシノミや、ムササビの糞、オオミノムシ、アカミゴケなどの地衣類や冬の植物のようすなど様々な観察ができました。

100人分の豚汁もきれいさっぱり。今年度最後の学習会を無事に楽しく終えることができました。

議員さんの研修会

（平成11年1月19日）

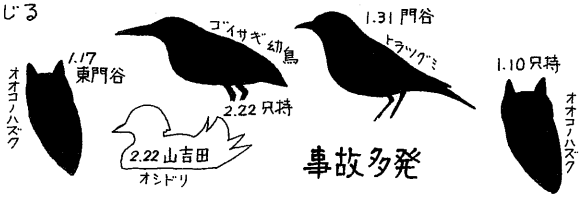
姉妹交流をしている東浦町と鳳来町の議会議員さんたちの研修会が博物館で行われました。

横山館長が講師になって「今注目される奥三河の素晴らしい鉱物」について講演しました。

津具の金山と金鉱脈、東栄町のセリサイト、田口鉱山のパイロックスマンガン石、アンチモニー、水晶、オパールなどなど。

話を聞いた議員さんは、今すぐハンマー片手に出かけたくなったのではないでしょうか。

講話の後は、館内やコノハズクも観てもらいました。



事故多発

今年に入って野鳥の事故が続きました。オオコノハズクは2件とも自動車に激突、トラツグミは窓ガラス、ゴイサギとオシドリは不明ですがひどいケガをしていました。残念ながらオシドリ以外は、すでに死んでいたりしばらくして死亡してしまいました。

学術委員全体会議

（平成10年12月13日）

各部門の学術委員が一同に集まり、博物館の行事について協議しました。

この席で11年度の野外学習会や特別展の内容などが決まります。

博物館運営審議会

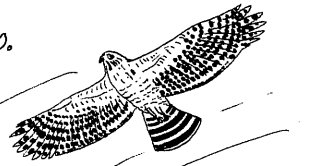
（平成11年2月25日）

平成10年度の事業報告と、11年度の計画について審議され、すべて承認していただきました。

あとは全力で実践あるのみ。

館員一同、力をあわせてガンバります。

川底の生きものを学ぶ



（平成10年12月6日、48名参加、晴）

豊川本流の寒狭川（サイクリングターミナル前）で実施しました。なぜ、この寒い時期に川底の生きものを学ぶかというと、水生昆虫は冬にいちばん大きくなっていて、観察に適しているからです。しかし、寒いので川に入る前にバードウォッチングをしたところ、頭上をクマタカが何回も何回もゆっくり旋回。大感激でした。

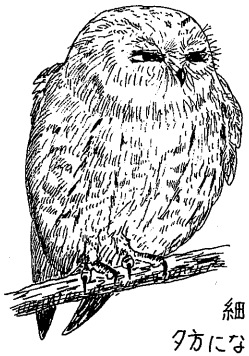
一方、川ではカワゲラやトビケラなどのなかま14種が確認できました。

水生生物による水質判断ではこの川は「きれいな水」でした。

はくぶつかんだより 1999.2 No.53
鳳来寺山自然科学博物館

冬のコノハズクだより アンド 博物館家頁(ホームページ)紙上公開

雪ニモ負ケズ　冬ノ寒サニモ負ケズ・・・



平成8年6月5日に博物館へやって来た「コノハI号」は、これで3度目の冬越しでした。最初の冬は、あやうく死にそうになりましたが、以後は中庭のコノハウス内でずっとくらしています。

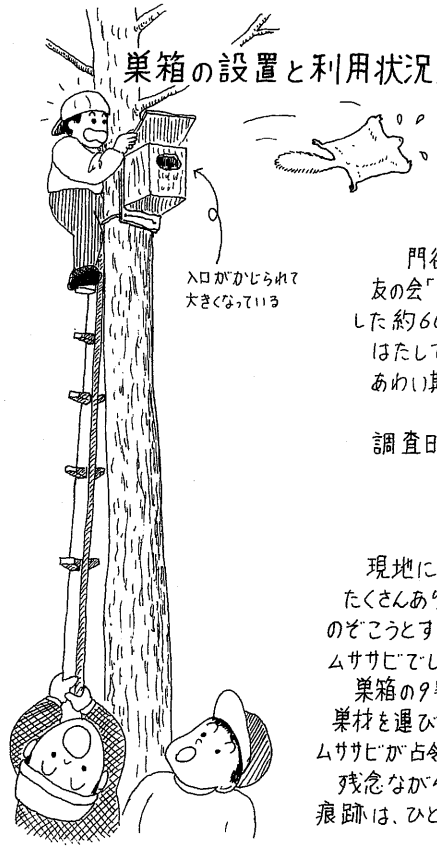
5cmほど積った雪の日も、氷点下5°C（最低気温）になる寒い朝も無事で、元気にしています。

昼間は、ほとんど動かず、うすく眼を開けて体じゅうの羽をふくらませて保温につとめているようです。でも、人の気配がすると、体をギッと細くして警戒ポーズをとります。

夕方になると、エサ台に置いた餌をサッとつかまえて、他の枝に持っていって食べます。エサのウズラ（ひな）は毎日7羽は平らげています。"しっかり食わないと冬の寒さには耐えられないぜ"と言っているようです。

お食事風景

巣箱の設置と利用状況追跡調査



入口がかじられて大きくなっている

コノハズク用にと設置してきた巣箱の追跡調査と増設が冬のたいせつな作業です。

門谷21世紀委員会の方たち、博物館友の会「コノハ倶楽部」で昨年までに設置した約60個について調査しました。

はたしてコノハズクは利用してくれたのか・・・あわい期待を胸に調査に出かけました。

調査日
- 1月17日　鳳来寺山（21世紀委会）
- 1月22日　カラ沢谷（コノハ倶楽部）
- 2月21日　鳳来寺山（21世紀委会）

現地にたどりつくと巣穴をかじられたものがたくさんありました。中のようすを確かめるためにのぞこうとすると、あわてて飛び出してきたのはムササビでした。

巣箱の9割以上にシジュウカラ、ヤマガラなどが巣材を運び、営巣していたようです。そして、それをムササビが占領してしまったのです。

残念ながら、コノハズクもオオコノハズクも利用した痕跡は、ひとつも見つかりませんでした。今後のお楽しみです。

巣箱の利用者たち

ムササビ

モモンガ？

らしき巣材を3ヶ所で発見。姿なし。本物なら鳳来寺山で初記録？

鳳来寺山自然科学博物館のホームページ（平成11年1月1日オープン）

（アドレス名）http://village.infoweb.ne.jp/~hourai99/index.html

博物館のホームページを開設しました。当館職員（森下）がいっしょうけんめい作りましたので、ぜひのぞいてみてください（アドレスは上記です）。今回、インターネットに接続できない方のために紙面で概要を紹介します。

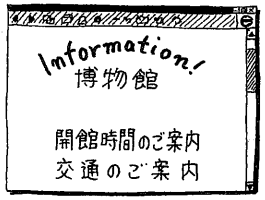
実際の内容をごらんになりたい人は、インターネットに接続している方に見せてもらうか、又は博物館事務室までおいで下さい。いつでも見ることができます。（ただし火曜日はお休みしています）

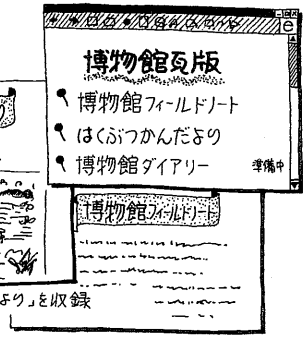
トップページの目次です

- 鳳来寺山自然科学博物館 Informations!
- 博物館電脳展示室
- 博物館電脳特別展　準備中！
- このはずく日記
- 博物館互版　New!
- 博物館Books
- 館長の部屋　準備中！
- 学芸員の学芸会　準備中！
- 看板娘's Q and A
- 友の会　New!
- 県の鳥コノハズク
- め-る　infoweb

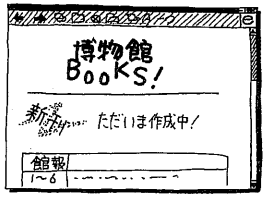
選りすぐりの展示品を紹介

コノハI号のようすをデジカメで記録

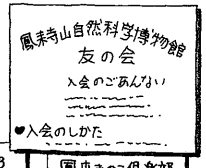


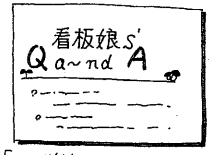


今までに発行してきた「たより」を収録

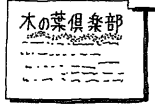


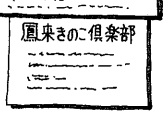
博物館刊行物の紹介

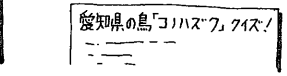




「めや巣箱」アンケートの中味は？







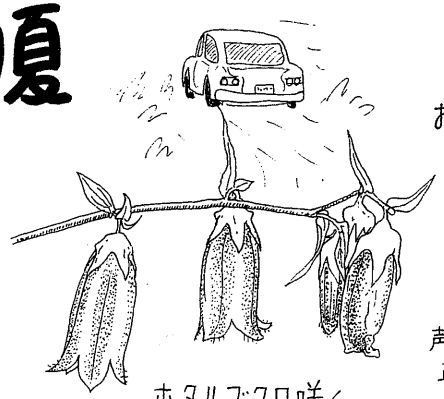
これからどんどん充実させ、進化していきますので、お楽しみに♡♥

あっという間に初夏

はくぶつかんだより No.55 1999.6

モリアオガエル今期初産卵
（平成11年5月15日 晴れ）

鳳来寺山では医王院近くの池が最も早く産卵する場所です。
ふつう、小雨の降る夜間に産みますが、この日は晴れでした。
今年はずっと晴天が続き、モリアオガエルにとってはつらい天気。雨を待ちきれなくて産んじゃったのかな、と思っていたら翌日には雨。ちゃんとわかっていたようです。



ホタルブクロ咲く
（平成11年6月5日）

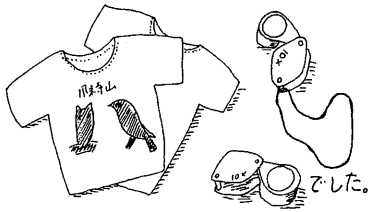
通勤途中の道路端で見かけました。近ごろは中に入れて遊ぶホタルも少なくなってしまいました。
自動車にまきあげられた土ぼこりをかぶって、かわいそうでした。

おひさしぶりです。
（平成11年6月14日）

キョロロロロロロ―― この日の午前10時頃、聞きなれない鳴き声が門谷に響きました。
小松家旅館の岡田さんが声を録音しておいてくれたので正体がわかりました。
アカショウビンです。全身が炎のように赤いカワセミのなかまの渡り鳥です。
久しぶりの美声のお客さんに感激しました。

学術委員総会・友の会総会
（平成11年5月8日）

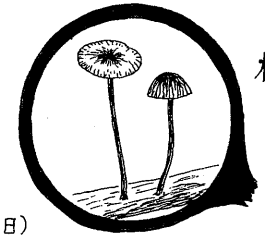
午後1時から博物館学術委員総会をおこないました。顧問の先生も迎えて、10年度の報告と今年度の事業の推進について話しあわれました。
ひきつづいて3時から友の会の総会。事業報告と計画が承認され、高木典雄先生の講演や会員表彰もありました。
今年は石代宗之、剛之、梶村敦子、亜寿沙さんの4名です。記念品は



でした。

鳳来寺山の初夏の生きものを学ぶ
（平成11年5月22日 晴れ 74名参加）

陸貝（カタツムリ）、野鳥、クモ、昆虫、魚、モリアオガエルなどについて観察しました。
博物館を出発して、中腹のモリアオガエルの産卵池まで。
午後は観察のまとめをしました。大平先生からはウスバカゲロウのおもしろい生態の話がありました。また、珍しいタカチホヘビを目の前で観ることができました。

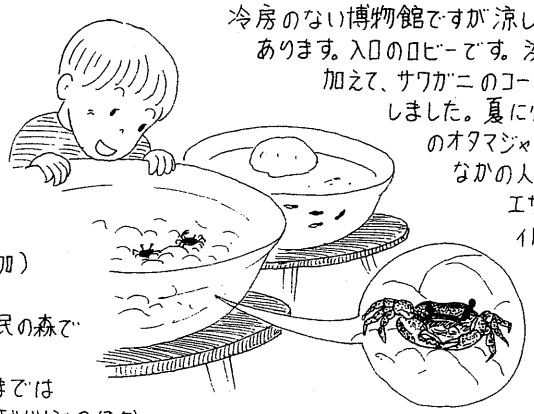


梅雨期のきのこ観察会（友の会主催）
（平成11年6月20日 小雨→晴 58名参加）

入梅後も雨がなく、2日前にやっと降りました。きのこの発生には、もう少し早く雨が欲しかったです。
でも、有毒のコテングタケモドキや食用になるシロキクラゲ、アラゲキクラゲなど22種、名前がわからない微小なきのこなどなど、それなりに顔を出していて観察できました。
実物のきのこがさびしかったので、スライドを楽しんで今後に期待することにしました。

涼やかな展示（平成11年5月17日）

冷房のない博物館ですが涼しげな場所がひとつあります。入口のロビーです。淡水魚の水槽に加えて、サワガニのコーナーがお目みえしました。夏に恒例のモリアオガエルのオタマジャクシと並んで、なかなかの人気です。
エサはミルワームやイトミミズです。



夏はゆうれいが似合います。
（平成11年4月22日～）

ユウレイタケの別名があります。鳳来寺山で落葉の中から発生していました。
全体がすきとおるような白色で、きのこのようですが腐生植物です。
森の中で出会うと、ドキッとしたり感動したりします。

つつじの花を楽しむ
（平成11年4月29日 晴れ 98名参加）

ホソバシャクナゲが満開の県民の森で実施しました。
ツツジのなかまではヒカゲツツジ、モチツツジのほか花は終りに近づいていましたがミツバツツジも見ることができました。
青空と新緑と花の遊歩道を子どもから大人まで楽しみました。
町長さんも参加して、今年度最初の屋根のない博物館の行事となりました。

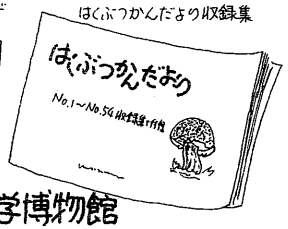
35周年記念出版物
（平成11年3月31日）

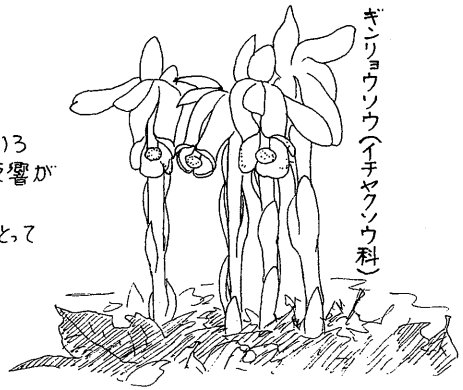
平成10年度は開館35周年の節目でした。
その機会に3つの出版物を発行したところ、いろいろなところから反響がありました。
多くの方が手にとってくださり、関心を寄せてくれることはうれしく、そしてありがたいことです。

館報28号

鳳来寺山自然観察ガイド

はくぶつかんだより収録集





ギンリョウソウ（イチヤクソウ科）

鳳来寺山自然科学博物館

コノハズク悲喜こもごも

さようなら コノハⅠ号
（1999年4月2日）

この日の朝、コノハウスをのぞくと昨夜のエサがそのままでした。胸さわぎがして中に入ってみると草の上にコノハⅠ号が横たわり、すでに冷たくなっていました。

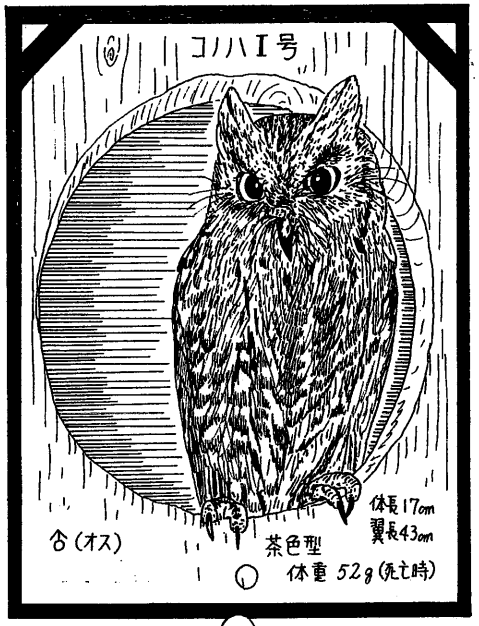
いつかはおとずれることと覚悟はしていましたが、あまりに突然で、声を失いました。

2週間ほど前から、日中にエサを食べたり、今まで使ったこともない巣箱にとまったり、ふだん見せたことのない行動はあったのですが……

死因が知りたかったので病理解剖をしてもらったところ、病気によるものではなく、加齢（年をとっていたこと）が原因だったようです。

1996年5月、名古屋の早川さんに保護され、一命をとりとめたコノハⅠ号がその年の6月5日に博物館にやって来て約3年。いろいろな体験と思い出と貴重な生態の記録を私たちに残してくれました。受入れの日から毎日つけた飼養記録も3冊になっていました。

早川敏雄さんとコノハⅠ号



コノハⅡ号見参
（1998年11月1日）

平成10年10月2日、午後11時頃 小牧市の路上で、コノハズクが車にぶつかってしまいました。

地元の動物病院の廣野獣医さんのけんめいな治療で助かりましたが、両翼骨折の重傷でした。1ヶ月の加療の後、尾張野鳥の会員の塩谷夫妻によって博物館へとどけられました。

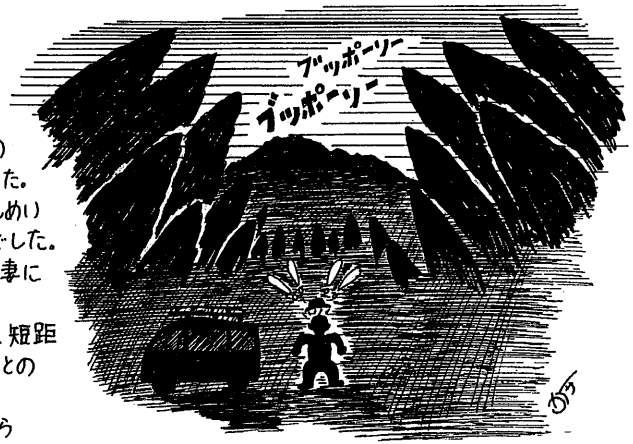
命は助かったものの骨折の程度がひどく、短距離しか飛べないために、野生復帰は無理とのことでした。

自らエサを食べるようになり、春になったらコノハウスに放鳥し、コノハⅠ号と住まわせることを夢みていました。

しかし、4月2日にⅠ号が他界してしまい、今はコノハⅡ号がコノハウスの主になっています。

今も元気でくらしています。

鳳来寺山で15年ぶりの「仏法僧」
（1999年5月13・14・15日）



鳳来寺山の方角から、かすかに、しかし確かに「ブッ ポー ソー」と聞こえてきたときの感激は生涯忘れられないでしょう。

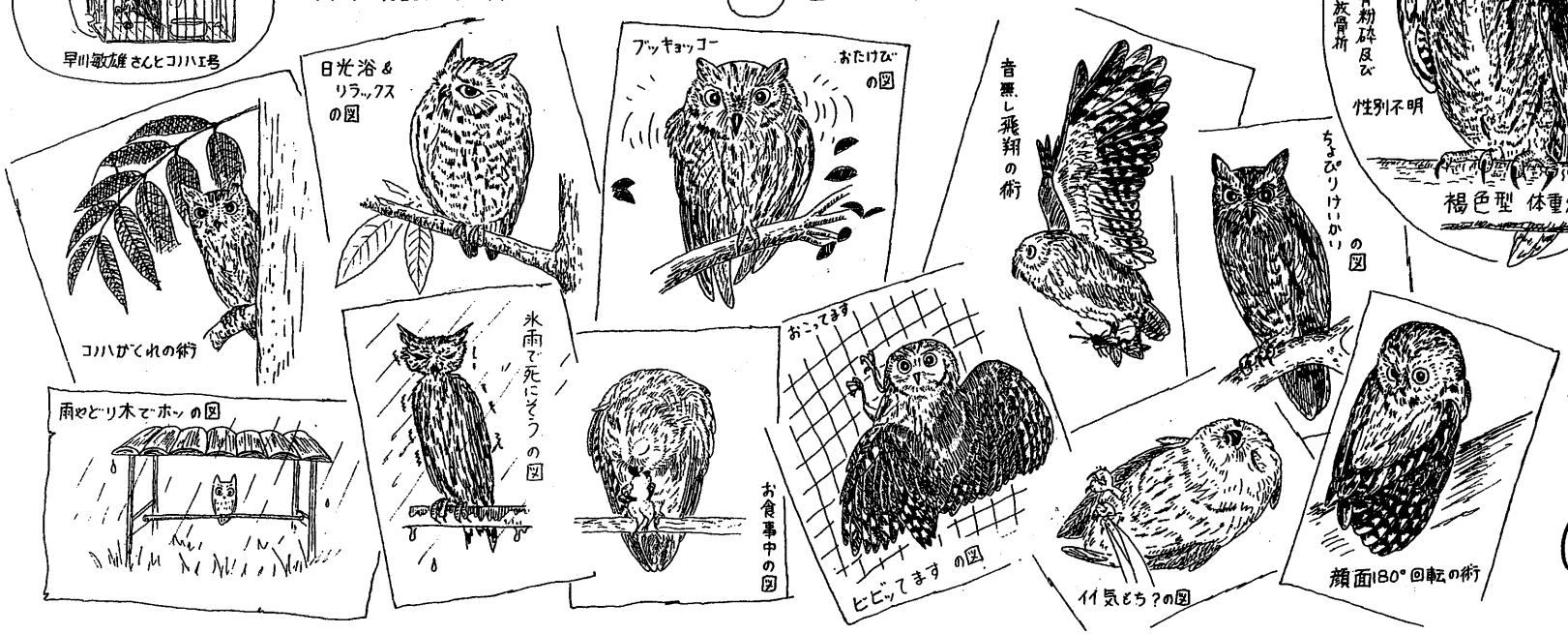
鳳来町・鳳来寺山のコノハズクは本当にいなくなってしまったのだろうか…。との思いから始めた生息調査も3年目になっていました。

もしや、と期待して何度も出かけて、そのたびに失意で帰った2年間だったので、その声に自分の耳をうたぐったほどです。

博物館職員が聞いたのは3日間だけでしたが、その後、玖老勢や門谷地内からもコノハズクの鳴き声などに関する情報が寄せられています。

長い時間をかけて住みにくくし、追いやってしまったコノハズクです。復活にはさらに長い長い時間がかかると思いますが、短期間でもコノハズクが鳳来寺山に立ち寄っていたことが確認でき、今後の保護活動への希望がわいてきました。

コノハⅠ号のアルバム



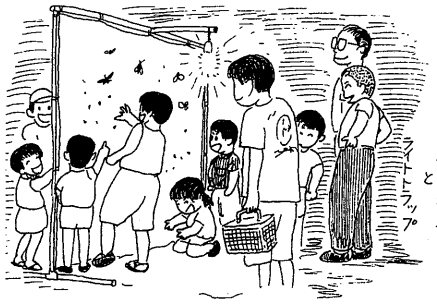
鳳来寺山自然科学博物館
はくぶつかんだより No.56 1999.7

博物館の夏

はもぶつかんだより No.57 1999.8

森や谷川の生きものを学ぶ
（1999年8月7日～8日　夕立のち晴　46名参加）

鳳来寺山の北側、安城農林演習林内で実施しました。
初めに槙原川の支流（カラ沢）に生息する水生生物の観察。続いてトラップの準備です。日没を待って燈火に集まる昆虫の観察と採集をおこないました。水銀燈に照らされた白布には、ガのなかまやカゲロウ、カワゲラ類が吸いよせられるように集まってきました。　ノコギリカミキリや珍しいカマキリモドキもやってきました。
翌朝は、朝6時からバードウォッチングでしたが、寝ぼうする人はひとりもいませんでした。朝食後は、昨夜の昆虫の観察をし終る。しっかり楽しく学びました。



原田猪津夫先生収集の昆虫・動物展の開催
（1999年7月20日～8月31日）

原田先生の膨大なコレクションの中から、チョウを中心に654種、1,955点（153ケース）の資料を大公開しました。新聞やテレビでも紹介され、おおぜいの人が見学してくれました（約3,600人）。
この展示のために自宅の収蔵庫で奥さんと何日も何日も標本の選定と準備をし、展示は学術委員動物部門全員と館員で作業をおこないました。先生の思い出のつまった標本と、思い出に残る特別展になりました。

鳳来町の地質を学ぶ
（1999年7月25日　晴　60名参加）

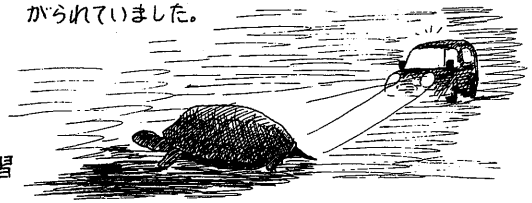
おとなと親子の2グループに分かれて役場を出発しました。親子組は旧花垣鉱山で堆積岩と安山岩の柱状節理を見て、さらに化石さがし。おとな組は、副川地内道路脇の露頭で、堆積岩と断層、入洞で河床の岩石を学びました。
最後に川売で合流し、棚山林道沿いの火山岩類の観察をしました。松脂岩や凝灰岩の露頭を観て、谷川の転石でオパールをさがしました。
みごとな結晶をゲットした人は、皆にうらやましがられていました。

夜の博物館

閉館後仕事をしていると、他に誰もいないはずなのに事務室の裏でゴトン、ゴゴッ、ゴトトンとかなり大きな物音がします。あたりが暗くなってくると、たいてい聞えてきます。とてもぶきみで、恐くなります。
最初は原因がわからなかったのですが、やっと犯人が判りました。ロビーで飼っているナマズでした。水槽内の大きな石や、かくれ家の土管をグラグラと動かすためです。地震とナマズの話が頭をよぎりました。

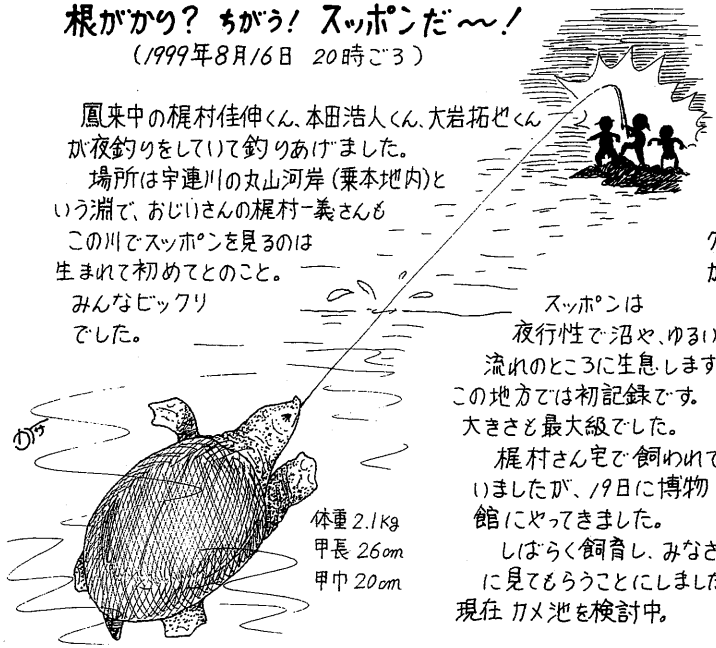
博物館実習・職場体験

学芸員資格のための博物館実習として宮地俊輔さん（8.1～8.11）、鳳来中学校の職場体験学習として多和田恭子さん（8.25）が博物館の仕事を体験しました。日常の活動のほんの一部でしたが、博物館を知ってもらう機会になりました。

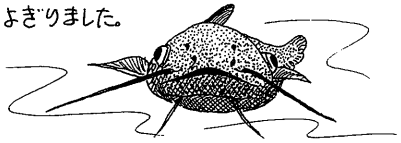


根がかり？ ちがう！ スッポンだ～！
（1999年8月16日　20時ごろ）

鳳来中の梶村佳伸くん、本田浩人くん、大岩拓也くんが夜釣りをしていて釣りあげました。
場所は宇連川の丸山河岸（乗本地内）という淵で、おじいさんの梶村一義さんもこの川でスッポンを見るのは生まれて初めてとのこと。
みんなビックリでした。



スッポンは夜行性で沼や、ゆるい流れのところに生息しますが、この地方では初記録です。大きさも最大級でした。
梶村さん宅で飼われていましたが、19日に博物館にやってきました。
しばらく飼育し、みなさんに見てもらうことにしました。現在カメ池を検討中。

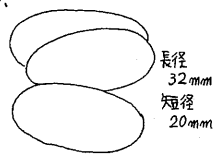


博物館の人気グッズ誕生
（1999年8月15日）

博物館で撮りためた写真やイラストでオリジナルのカンバッチを試作して窓口に置いたところ、お客さんにとても喜ばれ、好評です。
コノハズク、ムササビ、フクロウ、モリアオガエル、キノコなど様々で、どれもなかなかの人気です。
今後どんどんバリエーションを増やしていく予定です。

石？ あれ？ イシガメだ～！
（1999年7月20日　只持）

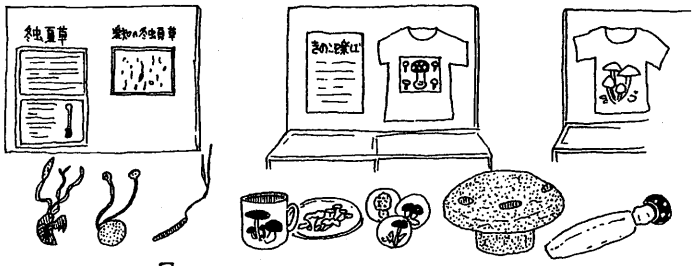
帰宅途中、道路の真ん中を石が動いていました。
車を止めて近づくと石ではなく、ニホンイシガメでした。顔にケガをしています。
館でようすを見ることにし、元気になってきた8月26、27、31日に各1個の卵を産みました。
赤ちゃんガメは出てくるのかナー。



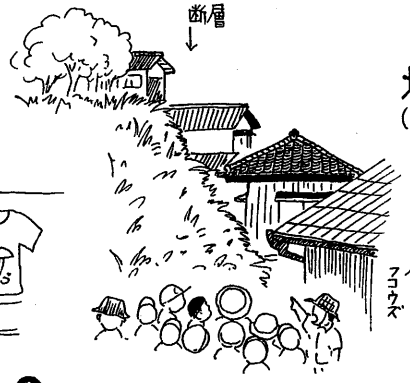
鳳来寺山自然科学博物館

秋と博物館

きのこ展の新コーナー（平成11年9月26日～11月30日）

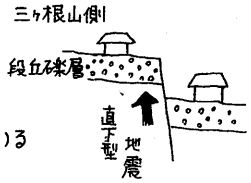


恒例のきのこ展が11年目になりました。実物のきのこは当然ですが、展示内容も毎年少しづつ変えています。今年は冬虫夏草（トウチュウカソウ）ときのこグッズのコーナーを拡充してみました。冬虫夏草とは、冬は虫の姿をしているのに、夏になると体から草（きのこ）が生えるという菌類のことです。
三河きのこ会の木村修司さんの協力で実現しました。



地形、岩石、断層を学ぶ
（平成11年9月5日 晴 46名参加）

昭和20年に起きた三河地震（マグニチュード7.1，死者約2200名）によってできた断層（深溝断層）に沿って見学しました。
断層の南側に被害が集中し、北側は軽微であったそうですが、今では立派な家が建っていて、想像もできません。
蒲郡市形原の住宅地で断層崖の見学をしていた際、地元の山本文助さんに当時の体験談を聞くことができました。
左図の右側に家があったのですが、断層にひっかかっていたために床が大きく傾いてしまったそうです。



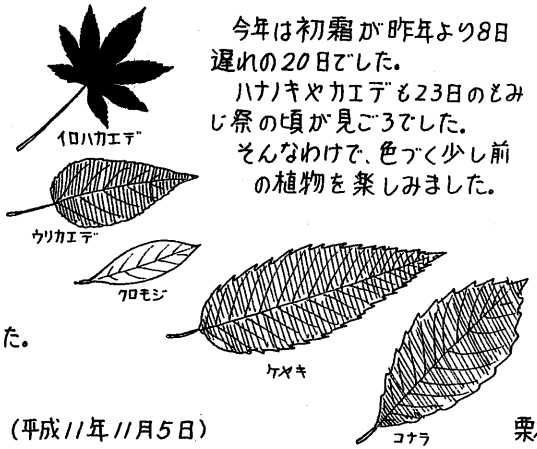
珍客
（平成11年9月19日）

鳳来町井代で、見たこともない鳥がうずくまっていました。じっとして動かず、元気がありません。
そこで、地元の友の会員でもある杉本弘美さんが保護し、博物館へつれてきました。
調べてみるとアカエリヒレアシシギのようです。
洗面器に水を張った中に入れると、プカリと浮いて、くるくる泳ぎだしました。
春秋に渡来する旅鳥で、海洋上に生息し、海岸近くの池沼や水田などで見る鳥です。
翌日には室内を元気に飛べるようになったので、さっそく放鳥することにしました。博物館から南の方角に、まっすぐ飛び去っていきました。

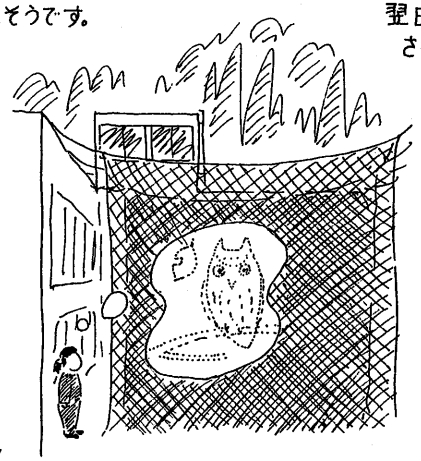
きのこを学ぶ会（平成11年10月11日 晴、90名参加）

今回は、鳳来寺山を離れて、長篠の医王寺山周辺でおこないました。
今年は気温が高く、秋になっても夏のきのこがまだ発生していました。
午前は、山できのこの観察と採集。午後は医王寺境内を借りて、採集品の同定会です。
食べられるきのこと、毒きのこの説明のときには、みんな目がぎらぎらしていました。

秋の紅葉を楽しむ
（平成11年11月14日 晴，44名参加）



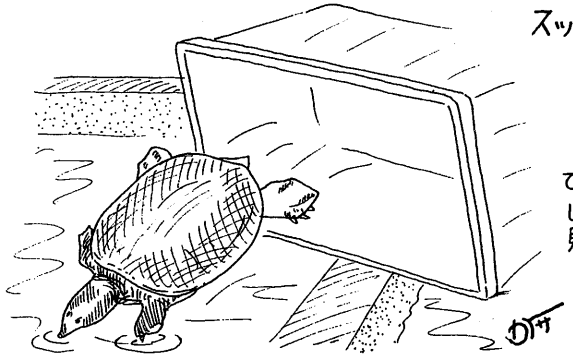
今年は初霜が昨年より8日遅れの20日でした。
ハナノキやカエデも23日のとみじ祭の頃が見ごろでした。
そんなわけで、色づく少し前の植物を楽しみました。



さみしいコノハウス
（平成11年11月1日 雨）

この日、コノハII号がネットの近くで冷たくなっていました。大ケガをして手術後コノハウスにやってきてから、ちょうど1年になったところでした。
今は、主（あるじ）のいないコノハウスです。

スッポン脱走（平成11年11月5日）



宇連川で釣りあげられ、博物館へやってきたスッポン（No.57参照）のポンタは、見学者の注目を集めていました。本格的な秋を迎えたこの日、博物館前の池で、寝ぐらにしていた衣装ケースをひっくりかえし、逃げ出してしまいました。2日間ほど池の中で首を伸しているところを見たのですが、その後、ゆくえ不明です。春になったら池の大捜索です。

南国？鳳来町栗衣

大人の背をゆうに越す大きさでした。
栗衣の石野さん宅の畑の巨大なサトイモ？を見せてもらい、びっくりです。
実はハスガラというサトイモ科の植物で、昔から農家の多くが野菜として畑のすみなどに植えていたのだそうです。
葉はサトイモより丸くて、茎の断面はレンコンに似ていて、蓮（ハス）を連想します。
今夏の多雨と高温のせいか、今年は花も咲かせたそうです。生まれ故郷の南国の記憶がよみがえったのかもしれません。
（平成11年9月6日）

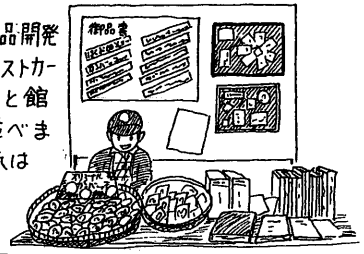
ほっぷつりーだより No.58 1999.11

— 鳳来寺山自然科学博物館 —

はぐつかんだより No.59 1999.12

秋も終りのころ

紅葉まつり・博物館イベント「36周年感謝祭」
（平成11年11月23日）



この日のために商品開発したカンバッチ、ポストカード、ラミネートカードと館出版物などを並べました。やはり人気はバッチでした。

博物館友の会と共催の初イベントでした。館のベランダを利用しておこないました。博物館のブースでは、グッズや書籍の販売コーナー、岩石化石コーナーを設けました。友の会ブースでは、会員の手づくりの民芸品、ポストカード、布製小物、竹とんぼ実演コーナーが開店しました。

準備から開催まで、おおぜいの方の協力で大成功の催しとなりました。好評だったので来年も開催することにしました。

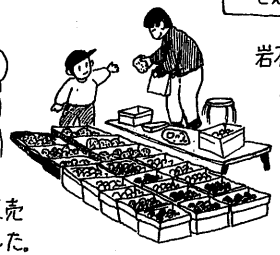
会員の太田さん、渡辺さん奥田さんの作品の即売コーナー。かわいらしい作品がいっぱいでした。

岩石・化石コーナー

花台からリース、花かごつえ、しょいたまで、高橋さんと本多さんの手作り作品がずらりと並びました。

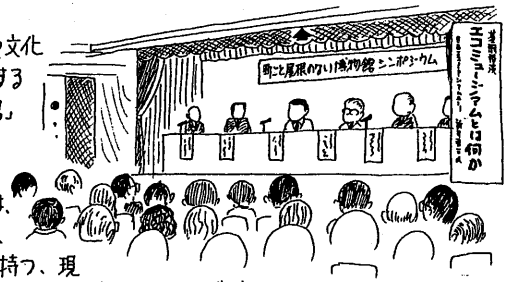
会員協力者　小椋父子、大嶽、豊田、竹之内夫婦、本多渡辺、平川夫婦、太田母娘、奥田、吉林、高橋のみなさんと、会場をにぎわせてくれた方々に感謝します

本多さんの竹とんぼ作り実演販売コーナー。子供たちに大人気でした。



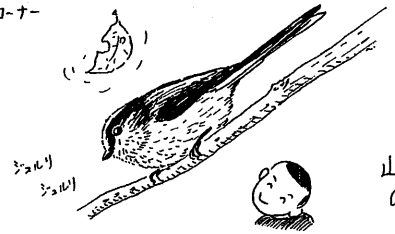
岩石、化石販売コーナー。松脂岩、蛇紋岩の新メニューを追加し品ぞろえも豊富に。男の子に人気でした。

町ごと屋根のない博物館シンポジウム
（平成11年12月4日、開発センター）



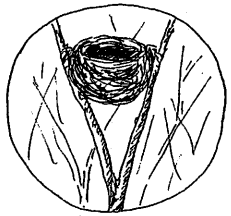
町では、町内の豊かな自然や文化を生かし、現地で保存、展示する「町ごと屋根のない博物館」の構想を進めていて、その具体化のためにシンポジウムを開催しました。会場では、構想の概要説明につづき、当館建設時に深いかかわりを持つ、現日本エコ・ミュージアム研究会会長の新井重三博士のビデオ講演があり、シンポジウムに入りました。横山館長のコーディネートで、新行、阿部、丸山、林の各先生と当館の加藤がパネリストとして、それぞれに意見を述べました。館施設を代表し、この構想の中での中核的施設としての機能の充実や、「町ごと屋根のない博物館」専用情報紙の必要性などについて提言しました。

野鳥の観察と巣箱づくり
（平成11年12月11日、晴　48名参加）



午前のバードウォッチングでは17種の野鳥と、山の家の大イチョウの枝先にかけられたメジロの巣が観察できました。地上10m以上の高さです。

午後は巣箱づくり。おもいおもいの巣箱を、全員完成させました。最後はできあがった巣箱を手に記念撮影でした。



ユケや枯れ草をクモの糸でつづって作られたメジロの巣
大きさは、中にゴルフボールがすっぽり入るくらい

きのこ展おわる
（平成11年11月30日）

長丁場のきのこ展もようやく終了しました。

期間中、いろいろな人の支援で294種の実物標本が並びました。きのこ相談も73件。時には不明種を持って来られ、食用か否か、判らないのは勉強不足。とおしかりを受けたこともありましたが、みなさんに支えられて、何とか11回目を終えることができました。

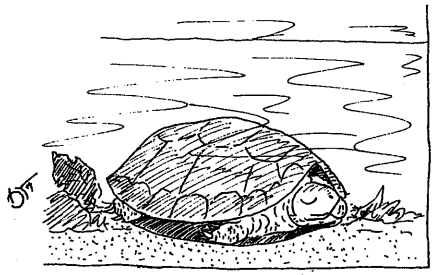
エナガのおでむかえ
（平成11年12月5日）

この日は博物館学術委員の先生方の全体会。新年度の行事を協議する大事な会議で、とても緊張します。

朝、準備をしているとエナガの一群が顔や頭をかすめるほどにやってきてジュルリジュルリと鳴き交わしはじめました。心なごむひとときで、会議もスムーズに進行したことはいうまでもありません。

決定した行事の内容は、「平成12年度行事案内」を作成し、みなさんにお知らせします。春、夏、秋の特別展と年間9回の学習会などもりだくさんです。おたのしみに。

おやすみカメ太



カメ池未完成のため、カメ水槽で冬眠中

10月末頃ごろからあまりエサを食べなくなりました。気温が低くなるにつれて、どんどん動きがにぶくなり、只今、冬眠中です。

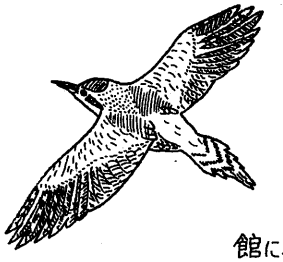
死んでしまったのかと心配になって、時々のぞくと動きだすので安心します。

こわい山火事
（平成11年12月26日）

鳳来寺山麓、博物館のすぐ近くで山林火災がありました。燃え広がる前に消し止められてホッ！

鳳来寺山自然科学博物館

2000年・冬・博物館・春

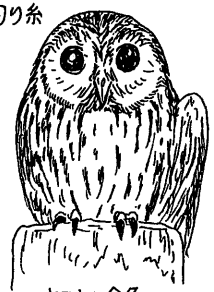


野鳥の受難と保護

アオゲラ（平成12年1月23日）
長篠の菅沼庫充さんの家の前に落鳥していました。脳しんとうを起こしていましたが、博物館に持ち込まれた時には、だいぶ元気になっていました。たぶん窓ガラスに激突したのでしょう。翌日の朝放鳥すると、元気よく飛び去っていきました。

オオコノハズク（平成12年1月9日）
友の会員の高橋 啓 さんが柿平で保護しましたが、すでに死亡していました。オオコノハズクは真冬も、この地方にとどまって越冬しています。冬は野生動物にとって、きびしい季節です。

フクロウ（平成12年2月13日）
湯谷地内の板敷川で、釣り糸にからまり飛べなくなってしまったフクロウが保護されました。ゆ～ゆ～ありいなの利用客の方が見つけ、職員の人がからみついた糸を取り除いて、館にとどけてくれました。左翼がダラリと下がってしまい、痛々しい姿でした。



フク太ロウと命名

館であずかり、ケガの回復を待つことにしました。
釣りをする人は、地球を釣ってしまっても糸はちゃんと回収すること！

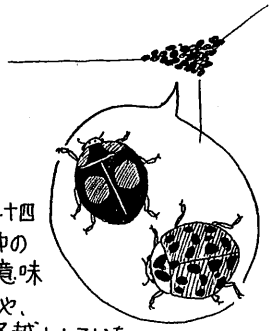
巣箱の中身は？

（平成12年1月30日～）

冬はコノハズクの繁殖用に掛けた巣箱の利用状況を確認する作業をします。この日の"門谷21世紀委員会"のみなさんの調査を皮切りに、作業が始まりました。
ヤマガラ、シジュウカラ、そしてムササビの利用は確認されましたが、コノハズクはまだ使っていないようです。
でも、喜びはもっと先にとっておきましょう。

啓蟄（けいちつ）

（平成12年3月5日）



むずかしいことばですが、二十四節気のひとつで、"冬ごもり中の虫が外に出るころ"といった意味です。館内でも天井のすみや、カーテンのヒダにかたまって冬越ししていたテントウムシやハエなどが、この頃から動きだしました。
上から突然目の前に虫が落ちてくるものですから、時々、女子職員が悲鳴をあげます。
こうして、春の到来を知らせてくれます。

セツブンソウ見納め

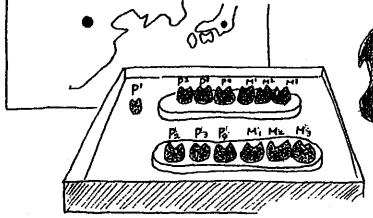
（平成12年3月5日）

大島ダム水没地内で見つけたセツブンソウ（たよりNo.42参照）は、その後どうしてるかなぁー。
大島方面に出掛ける用事の際、ちょっとのぞいてみました。
咲いていました。同じ場所で1株。
来年から試験たん水が始まるそうです。
たぶん今年が見納めになるでしょう。
カメラと脳裏に、最後の姿を焼きつけてきました。

バクの化石展示コーナー

（平成12年2月9日）

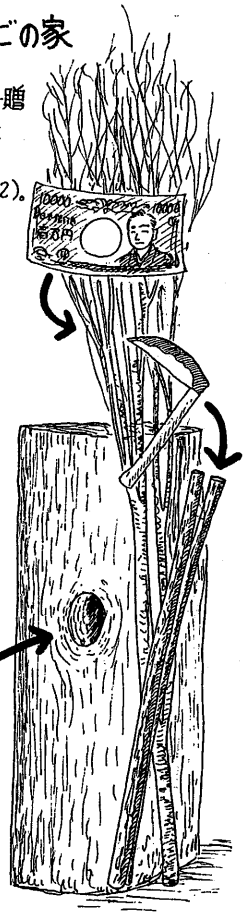
中国山東省山旺の中新世の珪藻土から見つかった、バクの頭骨の完全な歯の化石（模型）がそろいました。鳳来町分野産のバクの上あご化石と比較研究する上で貴重な資料となります。
当館学術委員の河村先生（愛教大教授・古生物）の尽力で、中国科学院、古せきつい動物、古人類研究所から入手できたものです。
展示館2階に鳳来町産と中国産が並べて展示してあります。



（たよりNo.46,49参照）

ガンピ、カマツカ、ムササビの家

つい最近相ついで樹木の寄贈がありました。樹高2.5m、茎の径3cmもある立派なガンピとカマツカは原田守さんからでした（黄柳野2.12）。
ガンピは高級和紙の原料で、お札にも使われています。一方カマツカは、その名のとおりカマのつかや、ゲンノウの柄に使われるかたくてじょうぶな木です。
山吉田財産区の方からは、樹幹の径が50cmの杉にあけられたムササビの巣穴です。
大切な材木にポッカリと穴をあけられて使いものにならなくなってしまいました。
片や、ムササビもマイホームを失ってしまいました。
これらの標本は、今後展示に利用させていただきます。



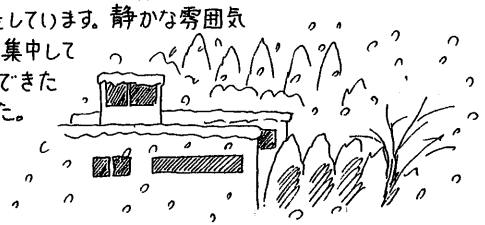
（2.9）

博物館大整理作戦（平成12年2月25日）

博物館の重要な活動のひとつに"資料の収集と保存"があります。ですから資料は年々蓄積され、37年間の活動で収蔵庫も図書室もその他の部屋も満ぱい状態です。今後の収蔵に支障が出ています。
この日は、階段下の収蔵室の大整理をおこないました。
資料を大切に保管し、活用していくためにもきちんと整理していく必要がありますが、大変な労力と大きな収蔵庫も必要です。

雪の博物館（平成12年2月16日）

近年まれな大雪でした。館のベランダで16cmの積雪。一面の雪景色で、来館者もほとんどありません。
博物館ではこの時期、館報や友の会報の編集作業などをしています。静かな雰囲気の中で集中して仕事ができた一日でした。



鳳来寺山自然科学博物館　はぐくみだより　No.60　2000.3